

浪花クラシードロマン 上演台本 (第3稿)

(Les Poissons rouges flottants)

たゆたふ金魚

安倍枕流

【登場人物】

小泉春日 《コイズミ・ハルヒ》 (長女。地元の地方公務員)

小泉琴美 《コイズミ・コトミ》 (次女。都会の会社員)

小泉 花 《コイズミ・ハナ》 (三女。高校生)

香芝天理 《カシバ・タカトシ》 (春日の同級生)

高田 桜 《タカダ・サクラ》 (琴美の同級生)

法隆寺玉藻 《ホウリユウジ・タマモ》 (春日たちの叔母)

郡山 幸 《コオリヤマ・ミユキ》 (琴美の同僚)

檀原明日香 《カシハラ・アスカ》 (同)

女の子

闇の中、本を読む声がある。廳《やが》て、一条の光が差すと、一人の女の子が本を読んでいる。

女の子　いまひとたびの春よ——いまひとしづくの露よ、それは一瞬《つかのま》ぼくの苦き杯のなかでゆすぶられ、そこから涙のやうにこぼれだすことだらう。

あゝぼくの青春よ！ おまえの喜びたちは時間のくちづけで凍らされてしまった、けれど、おまえの苦しみたちは時間に抗《あら》がって生きのび、時間をその胸のうへで壓《お》し殺した。

◆2

さうして、ぼくの命の絹糸《きぬいと》をほどいてしまったあなたがた、あゝ女《をみな》らよ、たとへぼくの戀物語のなかに、だれか騙す者がゐたとしてもそれはぼくではなく、だれか騙される者があってもそれはあなたがたではないのだ！

次第に辺りが明るむと、そこが民家の古びた地下室であることが判ってくる。

女の子　あゝ春よ！　ちいさき渡り鳥よ、ひと季節《とき》の客人《まらうど》よ、それはものがなしく歌ふのだ、詩人の心に、櫛の葉陰に！

いまひとたびの春よ——いまひとすぢの五月の陽の光よ、人々の間、若き詩人の面《おもて》に、森の樹々の間、古き櫛の面に！……（アロイジウス・ベルトラン『夜のガスパール』）

颯《さっ》と消える女の子。

◆3

1 季節の影 *L'ombre de la saison*

入れ替わりに、上手に光が差し込み、郡山と樫原が騒がしく階段を降りてくる。

古びた納戸。色々な物が雑多に置き、積み重ねられている。

郡山　（階段の上から）早くおりて……！

檀原 (階段をそろそろと降りてきつゝ) んなこと云ったって、危ないよ、見えないんだから、
下……

郡山 鰻……

檀原 え、鰻……？

郡山 鰻食べて……！

檀原 どうして……？

郡山 ヴィタミンAが豊富……

檀原 いや、幸ちゃんが奢ってくれるんなら食べるけど……

郡山 お金ないもん……！

檀原 あゝ、そうだろうと思った……

郡山 檀原さんの意地悪……！ (ト、檀原をドカドカ叩く)

檀原 痛い痛い、ゴメン、ゴメンてば……！

郡山 このヴィタミンA不足女……！

檀原 いや、ヴィタミンAが不足してなかったって見えやしないよ、暗いんだから…… (降り
立つ)

郡山 眼が悪いの……？

檀原 いや、そういうんじゃないかって——

郡山 頭も悪いのにな……

檀原 幸ちゃん……！

郡山 (無視して降り立ち) 見えないじゃん……！

檀原 (低声) だから云ってんの……

郡山 あれ……？

檀原 どうしたの……？

郡山 (奥を指さして) なんか、赤いもの……

檀原 え……！ (そっちを見る)

郡山 気のせいかな……

檀原 ちよつと、脅かさないでよ……

郡山 檀原さん……！

檀原 ハイ……？

郡山 見えない……！

檀原 でしょう……？

郡山 檀原さん……！

檀原 だから、なに……？

郡山 鰻……！

檀原 いやね——

郡山 買ってきて……！

檀原 だから、ビタミンAというより、不足してんのは明るさなんだから……
郡山 暗いわ……
檀原 そう、暗いでしょ……
郡山 檀原さん、暗い……！
檀原 それって、性格のことじゃないよね……？
郡山 わかんない……
檀原 思い出してよ、わたしたちがどうしてこんなところにいるのか……
郡山 どうして……？
檀原 やだなあ、幸ちゃんだよ、琴美ちゃんの実家には宝物があるそうだから、見てみたい、
ってったのは……
郡山 宝物……？
檀原 そう、宝物……
郡山 お宝……？
檀原 そう、お宝……
郡山 財宝……？
檀原 いや、財宝かどうかはちよっと……
郡山 檀原さん、みつけて……！
檀原 だから、みつけようと思ってるんじゃないの……

郡山 早く……！
檀原 ハイハイ……にしても、こう暗いんじゃないかね……
郡山 懐中電灯……
檀原 そいつが無いから、こうやって苦労してんでしょ……
郡山 はい……（ト、懐中電灯を差し出す）
檀原 って、持ってたんなら、早く云ってよ……！
郡山 鰻……
檀原 （懐中電灯を示して）これは鰻じゃありませんッ……
郡山 （下手の方を指さして）違う、あっち……
檀原 あっち……？

その方を懐中電灯で照らしつゝ、そちらに近づく檀原。後に従う郡山。聴て、
懐中電灯が、箱の山に書いてある字を照らし出す。

檀原 ……
郡山 ほら……
檀原 幸ちゃん、これ、「鰻」じゃなくて「鰻」……
郡山 コテ……？

檀原 ほら、壁土塗ったり、セメント塗ったりするときを使う、こんなな
ったヤツ……
郡山 あゝ……
檀原 ね、こゝんとこ良く見て、金《かね》偏でしょ……？
郡山 鰻……
檀原 だから、こいつは——
郡山 こっち……（ト、別の箱を示す）
檀原 （そっちを見て） 幸ちゃん、こっちも「鰻」じゃなくて「幔幕」の「幕」の字が隠れて
たの……
郡山 マンマク……？
檀原 ほら、お祝いのおときに赤白だんだらの幕張ったり、お葬式のおときに白黒だんだらの幕張
ったりするでしょ……？
郡山 うん……
檀原 あれが「幔幕」——
郡山 鰻……
檀原 幸ちゃん……！

ト見ると、「漫画」と書かれた箱が。

檀原 これは「漫画」の「漫」……！ 見たことあるでしょ、「漫画」って字……？
郡山 （またしても別の箱を指さす）……
檀原 これは「鰻頭」の「鰻」……！ 食べたことあるでしょ、お鰻頭ッ、って、どうしてこ
んなところにお鰻頭が……？ いくらなんでも不自然すぎない……？ もしかしてだれか
の陰謀……？
郡山 おまんじゅう食べたいねえ……
檀原 違うでしょ、幸ちゃん……
郡山 食べたくないの、おまんじゅう……？
檀原 食べたくないです……
郡山 鰻は……？
檀原 鰻はもういいの……！
郡山 暗いところ見えないよ……
檀原 だから懐中電灯持ってるんでしょ……！
郡山 そうなんだ……
檀原 だって、これ、幸ちゃんが持ってきたんでしょ……
郡山 だよね……
檀原 「だよねー」じゃないでしょ、幸ちゃん……！ そんなことより、幸ちゃん、わたし、

未だに聞いてないんだけど……

郡山 なにを……？

檀原 琴美ちゃんちのお宝って、いったいなに……？

郡山 金魚鉢……

檀原 え……なに……？

郡山 金魚鉢……

檀原 金魚鉢なの、お宝って……？

郡山 だよね……

檀原 「だよねー」の使い方、間違ってるし……

郡山 だよね……

檀原 そう、それが正しい使い方なんだから……

郡山 檀原さん……

檀原 なんなの、急に……

郡山 「檀原さん」って cash water sun と似てるよね……

檀原 似てるけど、どういう意味よ……

郡山 「現金、水、太陽」じゃないの……

檀原 単語ならべただけじゃん……

郡山 だよね……

檀原 それより、お宝って、ほんとに金魚鉢なの……？

郡山 そう云ってたよ、琴美ちゃん……

檀原 もしかして、安土桃山時代の骨董品とか……？

郡山 知らなーい……

檀原 だって、金魚鉢だよ、金魚鉢、普通、お宝ってたら、大判小判とか、有名人の手紙とか、日本画や焼き物の古いヤツとか——は——ん、もしかして、金魚鉢って、普通のガラスの安っぽいヤツじゃなくて、古伊万里とか古備前のことなんじゃない……？ なるほど、そうかそうか、そりやお宝だわ——あ……！ まさか、幸ちゃん、それをこっさり……そんな、琴美ちゃんの実家を是非見てみたいとか云って、態々《わざわざ》里帰りにくっついてきて、わたしにも一緒に行くこうって、そういえば、今月、カード使すぎたとか云ってたよね、でも、わたしもお洋服買すぎちゃったところへ、京終さんとか、帯解おびとけちゃんとか続けざまにデキチャッタ婚で、結婚式目白押しだし、ということは、これでもしかして、天の配剤ってヤツかしらん……？

郡山 檀原さん……！

檀原 は、はいッ……

郡山 早くしようよ……

檀原 でも暗いし、どこになにかあるかわかんないし……

郡山 じゃ、電気つけよう……！

ト、壁に近づくと、スイッチを入れる。ぼんやり明るくなる室内。

檀原 え、電気つくの……？

郡山 ついたじゃん……

檀原 だって、これ、懐中電灯……

郡山 階段暗かったから……

檀原 あ……そうだったの……

郡山 (納戸の荷物を見渡し) うーんと、どれがお宝かな……？

檀原 ねえ、幸ちゃん、まさか——

郡山 檀原さん……！

檀原 は、はいッ……！

郡山 わかんない……！

檀原 ぼ、わたしもッ……！

郡山 じゃ、琴美ちゃんに訊こう……！

檀原 えーッ……

郡山 (階段の下に行くとき、上に向かって叫ぶ) 琴美ちゃん……！

檀原 だって、幸ちゃん、琴美ちゃんに黙って行こうって……

郡山 なんだか忙しそうだったでしょ、琴美ちゃん……

檀原 あ……そういうわけ……

郡山 (上に向かい) 琴美ちゃん、ちよつと来てよー、やつぱりわかんないよー……！

琴美の声 幸ちゃん……？

郡山 そーだよー……！

琴美の声 どこにいの……？

郡山 地下の物置みたいところ……！

琴美の声 えー、どうして納戸なんかにいるの……？ ちよつと待って、いま行くから……

琴美が降りてくる。

琴美 なにしてんの、こんなところで……？

檀原 いえ、あのね——

琴美 檀原さんまで……

郡山 ほら、例のお宝……

琴美 あゝ、あれか……

檀原 幸ちゃんが、是非とも見たいからって……

郡山 見たい見たい……

琴美 見たってしょうがないよ、あんなの……
郡山 でも、お宝なんでしょ……？
琴美 古いだけだよ……
檀原 そのお宝って、金魚鉢なんだよね……？
琴美 そう、古い金魚鉢……
檀原 もしかして、骨董品だったりしない……？
琴美 骨董品ねえ……
檀原 ほら、古伊万里とか古備前とか古九谷とか……
琴美 陶磁器やないわね……
郡山 やっぱりガラス……？
琴美 そうよ……
檀原 じゃあその、薩摩切子《きりこ》とかバカラのクリスタルとか……？
琴美 まさか、そんなもん金魚鉢にしたりするわけないやん、もったいない……
郡山 「バカのクリスタル」ってなに……？
檀原 幸ちゃん、「バカ」じゃなくって——
郡山 わたし、バカじゃないもん……！
檀原 幸ちゃんのことじゃないから——
琴美 たゞの金魚鉢やって……

檀原 でも、「お宝」なんでしょ……？
琴美 わたしにとっては、たゞの金魚鉢やね……
檀原 じゃあ……？
琴美 お姉ちゃんにとつての宝物やねん……
檀原 お姉さんに、とつて……
郡山 見たいなー、金魚鉢……
琴美 （奥を眺め）うーんと、どこやろなあ……
郡山 琴美ちゃんもわかんないの……？
琴美 わたしも、ひさしぶりだし、こゝ……
檀原 （郡山に）幸ちゃん、そんな急がなくてもいいでしょ……？
郡山 うーん……
琴美 じゃ、お姉ちゃんに訊いてこようか……
檀原 いや、そんなことわたしたちがやりますよ、大体、まだ、お姉さんにちゃんと御挨拶もしてないんだし……ね、あとでいいでしょ、幸ちゃん……？
郡山 うん……
檀原 ハイ、結論が出たところで、上に戻りましょう……
琴美 そやね、埃だらけやし、こゝ……

三人、階段を昇ろうとしたところへ、春日の声がする。

春日の声 琴美ちゃん、琴美ちゃん……！

琴美 あ、お姉ちゃんや……

春日の声 琴美ー、ちよつと、どこにおんのー……？

檀原 琴美ちゃん、早く行かなきゃ……

琴美 お姉ちゃん……！

春日の声 え、どこー……？

琴美 納戸……！ いま行くし……！

春日の声 えー、納戸ー……？

琴美 そう……！

春日の声 あ、ちょうど良かった、そこにおつてー……！

ト、春日が降りてくる。

春日 (降りてきながら) あんた、なにしてんのん、こんなところで——(ト、他の二人に気付
き) あ……

檀原 あ、どうも、先ほどは、なにやらお忙しそうだったもので、ちゃんと御挨拶をいたしま

せんで……

春日 あ、こちらこそ、ちよつとバタバタしてたもんですから……

檀原 どうも、檀原明日香と申します……

郡山 郡山幸です……

春日 春日です……

琴美 二人ともわたしと同期入社……

檀原 部署は違うんですけどね……

琴美 明日香は、営業……

春日 向いてそうですね……

琴美 もう、天職よね、なんでも売っちゃうんやから……

檀原 (照れつと) そーなんですよ、(箱を指して) 鰻から鰻まで……

郡山 あ、鰻……！

琴美 どないしたん……？

檀原 だから、幸ちゃん、もう鰻は——

郡山 お土産忘れてた……

檀原 あゝ、お土産——あ、忘れてた……！

郡山 とつてくるね……！ (ト、階段を駆け上っていく)

檀原 幸ちゃん、お土産だったら、あとで、上でお渡しした方が……！ あ、ちよつと失礼し

ます……(ト、郡山を追っていく)

琴美 (階段の上に向かって) ねえ、お宝、見やへんのー……?

春日 お宝……?

琴美 あの二人がね、お姉ちゃんの宝物見たいって……

春日 わたしの宝物って……?

琴美 ほら、あの、金魚鉢……

春日 あゝ、あれ……

琴美 あれ……

春日 別に、宝物っていうほど大切にしているわけやないし、だいたい、金魚鉢なんか見て、ど
ないすんのん……

琴美 さあ……

春日 変なの……

琴美 それより、なんか用……?

春日 あ、そや、あんた、去年、あの九谷の大皿、どこにしもたか憶えてる……?

琴美 食器棚とちやうのん……?

春日 それが、見つかれへんのよ……

琴美 とすると、こゝか……

春日 なーんや、あんたも憶えてへんのん……

琴美 うーむ……

春日 てつきり、あんたが納戸にしもたんやと思てたのに……(ト、その辺の箱を調べ始める)

琴美 花は……?(こちらも、なんとなく探し始める)

春日 そろそろ帰ってくるころやけど……

琴美 受験生って大変やなあ……

春日 あんたかって、そうやったやん……

琴美 もう二度と御免やわ、あんな日々……

春日 あんたの会社、昇進試験とかあれへんの……?

琴美 大手いうのんは、実は保守的などこ多いんやで……

春日 ジョセーロードーシヤサベツ……

琴美 もちろん、表だつてはダンジョビョードーを唱えてるけどな……

春日 ありがちかもね……

琴美 まあ、たとえ試験受ける云われたつて、こつちから願い下げやどね……

春日 お気楽やなあ……

琴美 どつちがよ……あれへんなあ……

春日 (探しやめて) やっぱ花に訊くしかないか……

琴美 そうやねえ……

春日 あ、せや……

琴美 なに……？
春日 出しとく、金魚鉢……？
琴美 うーん……
春日 せっかく東京から来たたんやし……
琴美 にしても、わざわざ法事についてこんかてえゝのに……
春日 珍しかったんとちゃう、田舎の法事が……
琴美 まさか……
春日 毎年やるとこなんて、あんまりないで……
琴美 ほんま面倒やわ……
春日 でも、あんた、毎年帰ってきてくれてるやん……
琴美 あたりまえやん、お父さんお母さんのやねんから……
春日 「幔幕」の箱を見て）お爺ちゃんのお葬式ときは、出えへんかったくせに……
琴美 ちゃんとお通夜には出たやんか……
春日 その日のうちにとんぼ返り……
琴美 しゃあないやん、次の日、ぬけられへん会議があつたんやから……
春日 いまはないのん……？
琴美 ……
春日 ぬけられへん会議……

琴美 もう、そんな、バリバリ働いてもしゃあないし……
春日 ふうん……
琴美 お姉ちゃんは……？
春日 うん……？
琴美 忙しいんやろ、お役所……？
春日 地方公務員も人員削減で、仕事は増える一方やからね、いろいろやらされてるよ……
琴美 まあ、どこも同じや……
春日 なによ……
琴美 え……
春日 どないしたん……？
琴美 どないもしやへんけど……なんで……？
春日 だって、なんか疲れてる……
琴美 どこが……
春日 仕事に悩みありと見た……
琴美 そんなん、勝手に見立てんといてよ……（ト、一冊の本を見付ける）
春日 （横から本を奪い取り、埃をはたく）へえ、こんなとこにあつたんや……
琴美 なんの本……？
春日 *Gaspard de la Nuit* 《ガスパール・ド・ラ・ニユイ》、『夜のガスパール』……

春日 どうすんのん、金魚鉢……
琴美 出しといてもらいましょか、一応……
春日 OK……で……えーと……
琴美 ……？
春日 どこにしまったんやっけ……

ト、階段の上から、花の音がする。

花の声 春ちゃん、琴ちゃん……！

花が降りてくる。

花 琴ちゃん、お帰りー……！
琴美 ただいま……て云うか、ようわかったね、こゝにおるって……
花 上で、琴ちゃんのお友だちに聞いたし……
琴美 あゝ……（納得）
春日 （花に）模試、どうやった……？
花 うーん、ぼちぼち、ってとこかな……

春日 勉強してんの……？
花 まだ五月やん……
春日 云うてるうちに、夏なって、秋なって、冬なるんやで……
花 で、桜咲く、と……
春日 ほんまに、呑気やねんから……
花 しっかり合格して、春ちゃんに楽しせたらな……
春日 どうゆうこと……？
花 そうゆうこと……
琴美 あんた、あいかわらず自信たつぷりやな……
花 こうみえても、高ニんときの模試の判定やったら、だいたい合格ラインやからね……
琴美 へえ……
花 なによ、意外そうに……
琴美 意外やから、感心してんねやん……
花 琴ちゃん、妹、見る眼ないなあ、男を見る眼はあるんやろか、妹ながら心配やわ……
琴美 あいかかわらず、口だけは達者やな、ほんま、だいじよぶなん……？
花 まかせなさいって、あとは、生理痛さえ激しなかったら……
春日 ひどいんよ、この子……
琴美 お母さんの血イ引いたね……

花 え、生理痛って、遺伝すんの……？
琴美 さあ……

花 要因によつてはありうるか……しようもないもん引いてしもたなあ、きょうかて、そろそろ来そうな感じで、びくびくもんやつてんから……

琴美 あんまりひどいようやつたら、ちゃんと医者行きや……

花 はいはい……てゆうか、なにしてんのん、こんなとこで……？

琴美 探しもん……

春日 そや、花ちゃん、ほら、九谷の大皿あつたやん……

花 あゝ、あれね……

春日 去年どこにしもたか、憶えてへん……？

花 さあ……

春日 花も知らんのか……

花 だれも憶えてへんのん……？

琴美 そやねん……

春日 去年しまつたんで、だれよ、もう……

花 いつかて、春ちゃんがしもてたけどなあ……

琴美 やっぱ、お姉ちゃんかあ……

花 じゃあ、春ちゃんや……

春日 それがなあ、さっぱり……

花 歳やなあ……

琴美 コラ、ガキンちよが、ちよつとばかり若かし若いからいうて、つけあがつてんやないで……！

(ト、花を羽交い締め)

花 (振りほどこうとしながら) だつて若いもん……！

琴美 お姉ちゃん、やつてまえ……！

花 え、なにすんのん……

琴美 若い娘ハガイジメして、するこというたら……

花 セクハラ、ハンターイ……！

琴美 さ、お姉ちゃん……！

春日 ちよつと、あんたら、危ないって――

ところへ、戻ってくる榎原。

榎原 (紙袋を手にして階段を降りながら) いやあ、お待たせしました、なにしろ幸ちゃんがしまつた場所を忘れちゃつて、探し出すのに手間取りまして、(花に気付き)あ、妹さん、先ほどはどうも、ちよつと探すのに懸命だったものですから……

琴美 (花を解放して) なにを探してたん……？

檀原 いや、お土産をね――

そこへ、郡山が降りてくる。

郡山 えーと、お土産、です……

春日 まあ、気を遣っていたらいい……

郡山 いえいえ……（檀原に）出して……！

檀原 あ、ハイハイ……（ト、紙袋から、包装された箱を取り出し、春日に差し出す）

春日 （受け取って）まあ、どうも……

郡山 鰻です……

春日・琴美・花 鰻……？

檀原 幸ちゃん、鰻じゃなくて「うなぎパイ」でしょ……

春日 うなぎパイ……？

琴美 「夜のお菓子」の……？

檀原 ハイ、有限会社「春華堂」の「うなぎパイ」です……

花 東京から来たのうなぎパイ……

檀原 いやあ、急なことだったもんで、出がけにバタバタしちゃいまして……新幹線の車内販売で買いました……

琴美 それが浜松あたりやったわけやな……

郡山 鰻の粉末が入ってるよ……

花 粉末なんや……

郡山 食べても、暗いところでよく見えるようになるかどうかは……

檀原 もういいから、その話は……

郡山 「夜のお菓子」なのにねえ……

花 なんて、「夜のお菓子」って云うんやろね……

檀原 なんでも、一家団欒のひとつきを「うなぎパイ」で過ごしてほしいという願いを込めて付けたそうですよ……

春日・琴美・花・郡山 へえ……

檀原 でも、鰻を精力剤と勘違いする人も多かったとか……

春日・琴美・花・郡山 （納得）あゝ……

檀原 でも、春華堂では、別途、「朝のお菓子 すっぱんの郷」ってのも作ってますから……

春日・琴美・花・郡山 鰻《すっぱん》……

檀原 こっちはすっぱんエキス入りでして、朝、疲れが抜けないときなんか食べる、気分も爽快になる、という気持ちが入められてるそうで……

琴美 朝から鰻……

檀原 お昼には、カルシウムたっぷり「昼のお菓子 えび汐パイ」……

琴美 昼もあるの……

檀原 むふふの時間には、「真夜中のお菓子 うなぎパイVSOPI」……

花 VSOPI……

琴美 グレード・アップしてる……

檀原 さらに、朝、昼、晩、真夜中、すべてを詰め合わせた、その名も「うなぎパイ詰合せフルタイム」も……

春日・琴美・花・郡山 フルタイム……！

春日 とにかく、まあ、ありがとうございます……

花 琴ちゃんの会社の人でしたよね……？

檀原 はい、あの、同期入社でして……

花 関東の人……？

檀原 （郡山を指し）こっちの郡山さんは……

郡山 江戸モンです……

檀原 いや、江戸っ子ってったほうがいゝと思うよ、なんかエドモン・ロスタンみたいで、『シラノ・ド・ベルジュラック』とか書いちゃいそうだから……

琴美 檀原さんは、北海道やったよね……

檀原 そうなんですよ……

郡山 じゃあ、蝦夷っ子だね……

檀原 道産子って云って……！

花 へえ、北海道かあ……

春日 じゃあ、こっちのほうは……？

檀原 えゝ、高校の修学旅行以来です……

花 それが、なんで、ウチの法事に来よう……？

檀原 いや、わたしは単に、関西方面に女三人プチ旅行って聞いてたんですがね、まさか、ご両親のご法事に出席して、アマツサエ金魚鉢なんか探索しようなんてことは――

郡山 宝物を見せてもらいに……

花 タカラモノ……？

檀原 幸ちゃん……！

琴美 ほら、金魚鉢、お姉ちゃんの……

花 え、あれ……？ なんでまた……？

檀原 （郡山を示して）彼女が、是非見たいと云うもんですから……

花 檀原さんも……？

檀原 えーと、それがまあ、先月お洋服買いきちやって、お金もないのにどうして旅行なんて行くことになったんだか、いまと違っては、まさに魔に魅入られたとしか……

琴美 檀原さん、面倒見えゝし……

檀原 （照れる）いやあ……

郡山 檀原さん、主体性ないし……

檀原 ちよっと、幸ちゃん……

春日 まあまあ、主体性のない人なんて、たくさんいますから……

花 春ちゃんもね、けっこうそういう感じやもんね……

琴美 というか、フォローになつてないし……

花 (檀原と郡山に) 春ちゃんね、面倒見いゝんですよ……

琴美 なにしろ、親代わりやつたから……

春日 しゃあないやん、琴美かてまだ高校生やったし、花なんか九つやったし……

花 そっか、ということは、もうすぐ、春ちゃんが親やつてる時間のほうが、わたしにとつ

ては長くなるんや……

琴美 きょうで、九年目やもん……

一同 ……

檀原 でも、珍しいですよ、毎年法事やるのつて、普通、一周忌、三回忌、七《しち》回忌
でしょ……

琴美 だから、それが、この辺の習慣なんよ、おかげで、毎年大変なんやから……

春日 あ、そうそう、九谷の大皿……

琴美 もう、どこ行つたんやろ……

花 だいぶ探したん……？

春日 うん……

琴美 別のんつこたら……？

春日 そうやね……

花 だいたい、早よ支度せな、狐叔母ちゃんが来てまうで……

郡山 狐……？

花 「玉藻」いう名前なんですけど、なかなかのクセもんなんで、みんな蔭では、「玉藻前
《たまものまえ》」とか、その正体の「九尾の狐」とか呼んでるんですよ……

檀原 あゝ、あの鳥羽法王を誑《たぶら》かしたとかいう伝説の……

花 そうそう、それそれ……

途端に、上から玉藻の音がする。

玉藻の声 ちよっと、だあれもおれへんの……？

花 噂をすれば影……

玉藻の声 春ちゃーん……！

琴美 あかん、わたし、行ってくるわ…… (ト、急いで階段を昇っていく)

春日 待って、わたしも…… (ト、階段に向かう)

花 (檀原と郡山に) ね、大変でしょ……

春日 (立ち止まって、花に)なにを他人事《ひとごと》みたいにな、あんたも行くで……(ト、階段を昇っていく)

花 はいはい……(ト、これ亦、階段を昇っていく)

檀原 いやあ、みんな、行っちゃったねえ……

郡山 檀原さん、金魚鉢……!

檀原 あ、そうだ、ちょっと、琴美ちゃん、金魚鉢……!

残った二人も、周章てゝ後を追って消える。

2 故里 *le pays natal*

再び無人の部屋。

ト、どこからともなく女の子が現れ、適当な箱に坐わると、手にしている本を読み出す。

ト、はっと上手を見る女の子。

郡山が階段を降りてくる。

郡山 もう、やっぱり暗いんだから……

女の子 (立ち上がる) ……

郡山 だれ……?

女の子 (郡山を見る) ……

郡山 なーんだ、女の子か……

女の子 ……

郡山 (近寄ってきて) でも、どこの子……?

女の子 ……

郡山 琴美ちゃんの親戚だよね……?

女の子 (曖昧に項突く) ……

女の子 (本を開いたまゝ、その辺の箱の上に置く) ……

郡山 本を探しにきたんだ……『草野心平詩集』……へえ、「金魚」って詩があるんだ……

女の子 (立ち上がり、階段に向かう) ……

郡山 あ、また、あとでね……

女の子 ……(こくりと項突くと、階段を昇っていく)

郡山 (見送って) あ、でも、この本……ま、いつか……

その辺を探索し始める郡山。

ト、階段の上で声がする。吃驚して、荷物の蔭に隠れる郡山。
すぐに、春日を従えた玉藻が、階段を降りてくる。

玉藻 だってね、毎年、あれ出すことになってるんやから……

春日 はあ、まあ……

玉藻 あの九谷の大皿、姉さんかて気に入ってたん、知ってるやろ……？

春日 でも、ほんまに見つからへんかったんですよ……

玉藻 だって、年にいっぺんしか使えへんのやろ……？

春日 はい……

玉藻 ほんなら、去年しもたどこにあるにきまつてるやないの……

春日 だから、その場所が……

玉藻 納戸以外にあれへんでしょ、しまうとこなんか……（ト、その辺を無闇に探しはじめる）

春日 毎年、そないしてましたけど……

玉藻 春ちゃんはな、おっとりしてえゝ子やけど、なにゝことにも限度ちゅうもんがあるんやで、過ぎたるは猶《なお》及ばざるが如し、云うてやな、おっとりも度を越したら、たゞのボンヤリさんになんねんから……

春日 はい……

玉藻 あんた、幾つんだったん……？

春日 三十二です……

玉藻 なんや、もう、厄年かいな……！

春日 はい……

玉藻 付き合ってる人とかは……？

春日 いてません……

玉藻 お見合いとか、しやへん……？

春日 いやあ、ちよつと……

玉藻 この家か……？

春日 は……？

玉藻 この家、守らなあかんとか、思てんとちやうやろね……？

春日 いや、まあ……

玉藻 （探索の手を休めて、春日に向き直り）春ちゃん……

春日 は、はい……？

玉藻 （ガツシリ春日の両肩を掴んで）えゝか、あんたはまだ若い……

春日 いやあ……

玉藻 このまゝ、親の仏壇守って朽ち果てゝくつもりか……？

春日 そんな、叔母ちゃん——

玉藻 こんな家、いつ抛《ほ》り出したかてかめへんのよ、姉さんもお義兄《にい》さんも、

そんなこと気にしやへんから……

春日 けど……

玉藻 いつまでも、カコのボーレーにジュバクされとつたらあかんで……

春日 ……

玉藻 この家のことやったら、家財道具一切合切、安心して、この叔母ちゃんに任せたらかめへんから……

春日 あ、そういうことか……

玉藻 なにが、そういうことやの……

春日 い、いえ……

玉藻 うちの茜なあ、まだ十四やねんけど、なんや、春ちゃんに似てきてんのよ、雰囲気とか……

春日 茜ちゃんが……

玉藻 せやから、あんた見てると、他人のような気がしやへんねん……

春日 すでに他人やないですよ……

玉藻 あんたがこうやと、うちの茜まで行かず後家になるんちゃうやろかと、心配で心配で……

春日 て云われても……

ところへ、花が降りてくる。

花

(降りてきながら) 春ちゃん、おんのやろ……? 春ちゃんと同級生いう人が来たはんねん……そんな、九谷の大皿探すのなんか、もうやめときって、あの狐の叔母ちゃんには、わたしが云うとくし——(ト、玉藻に気付く) あ……

玉藻 だれが狐やて……?

花 あ、いや、叔母ちゃんて、キツ、キツメの美人やなあ……

玉藻 なにを云うてんねん……!

花 ご、ごめ——

玉藻 困るがな、そんな、ほんまのこと云うてもうたら……(嬉しそう)

花 はあ……

春日 花ちゃん、同級生って、だれなん……?

花 えーと、去年は来てはらへんかったと思うけど……

春日 だれやろ……?

ト、階段の上から、香芝が顔を出す。

香芝 なんか、探してんねんて……?

春日 香芝君……

香芝 (降りてきて) 久しぶり……

春日 うん……

香芝 (玉藻に) あの、春日さんとは、小中高と、ずっと一緒やった、香芝です……

玉藻 あ、幼馴染み……

香芝 え、小さいころは、こゝへも、よう遊びにきとったんですけどね……

春日 そやったね……

香芝 そやのに、おじさん、おばさんの法事にはご無沙汰してもうて……

春日 何年ぶりやろ……

香芝 三回忌以来かな……

玉藻 あの、春日の叔母の法隆寺です……

香芝 あ、どうも……

玉藻 わざわざお越しいたゞいて……

香芝 いえ、こちらこそ、今年は、ちようど、休みが取れたもんで……

春日 上で待っといてくれたらえゝのに……

香芝 いや、ちよつと、懐かしなつて……

玉藻 懐かしい……?

香芝 昔ね、よう、この部屋で遊んだんです……

玉藻 こんなところで……?

香芝 こゝ、なんか、秘密基地っぽいでしょ……?

玉藻 さあ……

香芝 そういえば、琴美ちゃんは……?

花 琴ちゃんは、ちよつと買ひもん……

香芝 花ちゃんやね……

花 はい……

香芝 いまは……?

花 高三です……

香芝 受験生……?

花 えゝ……

香芝 大きくなったなあ、昔は、こんなんやったのに……

花 昔から大きかったら、変ですから……

春日 花ちゃん……

香芝 ……

花 ……

玉藻 あ、いや、まあ、こんなところで立ち話もなんですから、ね、そろそろ、上あがりまし
ようか……

花 じゃ……

ト、花が階段を昇ろうとしたところへ、降りてくる琴美。

花 あ、琴ちゃん、お帰り……

琴美 お帰りやないよ、なんでみんな、こんなところに潜ってんのよ、上、櫃原さんしかおらんやん……

玉藻 ほら、例の九谷の大皿がさ、どうしても見つかんなくって……

花 叔母ちゃん、あきらめよ、もう時間ないし……

玉藻 うーん、でもねえ……

琴美 叔母ちゃん、花の云うとおりやわ、さ、台所やりましょ……（むんずと玉藻の腕を掴むと、有無をも云わさず、階段を昇っていく）

玉藻 （引っ張られながら）ちよつと、琴ちゃん、（香芝に）あ、ごゆっくりどうぞ、（春日に）春ちゃん、気い向いたら、探しといてね、九谷の大皿……

春日 あ、はい……

二人きりの沈黙。

香芝 えーと……

春日 （女の子の残していった本に気付き）あ……

香芝 詩集……？

春日 うん……

香芝 自分のん……？

春日 うゝん……たぶん、お父さんの……（本を閉じて）でも、なんでこんなところにあるんやろ……？

香芝 おじさんが置いたんやったりして……

春日 お父さんが……？

香芝 娘に見てもらいたかったとか……

春日 まさか……

香芝 ……

春日 ……

香芝 忙しい……？

春日 ぼちぼちね……そっちは……？

香芝 そっちと違ごて民間やからね、もう、そりや……

春日 そやろね……

香芝 まあ、仕事あるだけ、御の字かも……

春日 ……
香芝 えーと……
春日 ……？
香芝 （部屋を見渡し）昔、よう、こうやって、二人で、こゝに隠れたよな……
春日 うん……他の子たちと、ヒミツキチごっこかもやったよね……
香芝 まだ、ちいちゃかった琴実ちゃんが、いっしょに遊びたがって……
春日 琴美がお昼寝したすきに遊んだりして……
香芝 そのへんから、もうどきどきしとったな……
春日 雨の日なんか、いまにも浸水してきそうな感じで、さらにどきどき……
香芝 あゝ……
春日 そや……
香芝 なに……？
春日 香芝君、こゝ水浸しにして、プールにしよ、云うたことあった……
香芝 俺が……？
春日 うん、こゝプールにして、金魚飼おって……
香芝 金魚……
春日 ほら、縁日の金魚すくいであくさん取ってきたとき……
香芝 あゝ、あのととき……

春日 金魚鉢中、金魚だらけになるくらい、ぎょうさんおって……
香芝 せやったなあ……
春日 うん……
香芝 二、三日で、みんな死んでしもたんやったつけ……
春日 いっぴき以外はね……
香芝 ぎゅうぎゅう詰めやったんやろ、金魚鉢……
春日 うん……手えつつこんだら、金魚のにおいがついてしても、洗っても、なかなかとれへん気がして……
香芝 金魚臭かった……？
春日 うん……なんか、ね……女のにおい……
香芝 女のにおい……？
春日 てゆうか、いろいろメンドクサイな、女って……
香芝 おいおい……
春日 わたし、男に生まれたかったわ……
香芝 春日は、男以上に男っぽいで……
春日 なによ、それ……
香芝 褒めことば……
春日 ほんま、男って、鈍感なんやから……

香芝　こんどは男の悪口かいな……
春日　ほんま迂闊（うがつ）やわ、男（お）って……
香芝　じゃあ、なにがえゝねんな……
春日　いっそ……
香芝　いっそ……？
春日　金魚……
香芝　はア……？
春日　羽根のある金魚とか、えゝなあ……
香芝　なんや、それ……
春日　空へと脱出できるやん……
香芝　そら、金魚やのうて、飛魚（とびうお）やろ……
春日　香芝君は、詩心もないんやから……
香芝　悪うござんしたね……
春日　……
香芝　……
春日　そうそう、あんとき……
香芝　あんとき……？
春日　金魚鉢（きんぎょばち）いっばいやったとき……

香芝　あゝ……
春日　わたしが、もっと大きい金魚鉢（きんぎょばち）ほしって云（い）ったら……
香芝　まだある、あれ……？
春日　たぶん……この部屋の、どっかに……
香芝　忘れてまうくらい前に、しもたってわけや……
春日　高三の秋祭りのが最後（さいご）やったから、香芝君（かぜきくん）の金魚（きんぎょ）すくい見たのん……
香芝　そやったっけ……
春日　だって、大学（だいがく）んときは、お祭り（まつり）んときとか、こっちへ帰（かえ）ってきやへんかったし……
香芝　せやな……
春日　あんときも、そんなに取（と）ってくれへんかったけど……
香芝　へえ……
春日　だって、三匹（さんびき）だけやったもん……
香芝　え、そら少ないなあ……
春日　まあね、そんな心の余裕（よゆう）がなかったんかもね……
香芝　余裕（よゆう）ねえ……
春日　受験（じゅけん）生（せい）やったし……
香芝　そうか……
春日　そうかも……

香芝 じゃあ、金魚鉢、ガラガラやったんや……？
春日 まあね……でも……

香芝 でも……？

春日 雨の日に、縁側で、金魚を手の甲の甲のつけて遊んでたら、つ……と滑って、庭の池のなかに、ぼちゃん、て……

香芝 へえ……

春日 貴重な金魚やったのにね……

香芝 ……

春日 なあ……

香芝 ん……

春日 相変わらず、上手いん、金魚すくい……

香芝 ……

春日 ……

香芝 さあ……

春日 ……

香芝 最近、些《ち》ともやってないし……

春日 ほんま……？

香芝 ほんま……

春日 ……

香芝 ……

春日 しやへんのん、結婚……

香芝 相手がおれへん……

春日 すくったらえゝやん……

香芝 縁日でか……

春日 そや、簡単やろ……

香芝 ……

春日 琴美かて……

香芝 ……

春日 ……

香芝 金魚すくいのコツ知ってるか……？

春日 知らへんよ、そんなん……

香芝 金魚すくいのコツはな、欲張らんこっちゃ……

春日 ふうん……

香芝 ……

春日 嘘つき……

香芝 うん……

春日 ……
香芝 ……
春日 さ、上に戻らな……
香芝 そやな……
春日 (去ろうとして立ち止まり) あ、そういえば……
香芝 なんや……?
春日 金魚鉢……
香芝 金魚鉢……?
春日 探してゝん……
香芝 金魚鉢を、なんでまた……?
春日 (指を脣にあて) シツ……
香芝 なんなん……?
春日 聞こえへん……?
香芝 なにが……?
春日 静かに……

耳を澄ます二人。ト、微かに鼾《いびき》が聞こえてくる。

二人、忍び足で音の方へと近寄っていくと、物陰で郡山が眠り込んでいる。

香芝 だれ……?
春日 琴美の会社の同僚……
香芝 琴美ちゃんの……?
春日 そう……
香芝 それがまたなんで……?
春日 さあ……(郡山を揺すぶる) ねえ、郡山さん、ちよつと……
郡山 (目覚めて起き上がり、大欠伸《あくび》) ふあゝゝゝ……あ、お姉さん……
春日 いつから、こゝで……?
郡山 えーと、女の子がいたときから……
春日 女の子……?
郡山 金魚みたいな服を着た……あ、それで金魚の夢を見たのかも……
春日 金魚の夢……?
郡山 (項突いて) 自分が金魚になった夢……
春日・香芝 ……

ところへ降りてくる琴美。

琴美 お姉ちゃん、もう、わたしギブ・アップ、助けて、台所……
春日 花と叔母ちゃんがおるやん……
琴美 あかんあかん、花はぜーんぜん使えへんし、叔母ちゃんはご近所さんと駄弁ってるし……
……（ト、郡山に気付く）あ、幸ちゃん、どこに消えたかと思ったら、なにしてんの、こんなところで……？

香芝 寝てはったみたいやで……

琴美 ちようどよかった、幸ちゃん、台所手伝ってもらおうよ……（ト、郡山の腕を掴む）

郡山 あ、でも、金魚鉢……

琴美 そんなん、後々……（ト、階段に押し上げる）はい、お姉ちゃんといっしょに行って……

……

郡山 そんな、琴美ちゃんは……

琴美 わたしは、休憩タイム……

郡山 えー……

琴美 あたりまえやん、朝からずっと働いてんねんから……

春日 しゃあないなあ、さ、郡山さん、行きましょ……（ちらりと香芝の方を見て）じゃあ、

早よあがってきてや……（郡山を促すと、階段を昇っていく）

香芝 （二人を見送って）相変わらずやなあ、琴美ちゃんも……

琴美 相変わらずって……？

香芝 元気一杯いうか、押しが強いいうか、強引いうか……

琴美 そんなふうにしてたんや……

香芝 あの時から——

琴美 ……

香芝 …… 「俺んとこ押しかけてきて」とか思ってたんでしょ……

香芝 いや——

琴美 え、よ、事実やもん……

香芝 まあね……

琴美 親不孝モンで……

香芝 しゃあないさ、まさかあんな風になるとは、だれも思えへんかったんやから……

琴美 ……

香芝 ……

琴美 ずるい……

香芝 男は狡いもんや……

琴美 一般論にすりかえんとってよ……

香芝 普遍性のある話やと思うけど……

琴美 ……

香芝 ……
琴美 昔のまんまや……
香芝 (気まずさを振り払うように、視線を上方に投げ) もう、九年か……
琴美 うん、九年……
香芝 (ト、その辺を探り始め) えーと、九谷の大皿だっけ……？
琴美 えーよ、もう、探さんかて……
香芝 (探し続け) でも、要るんやろ……
琴美 叔母ちゃんだけやし、こだわってんの……
香芝 拘《こだわ》るなりの理由があるんやろ……
琴美 さあ……
香芝 あるんやで、きつと、叔母さんには……
琴美 かもしらへんけど……
香芝 けど……
琴美 ……？
香芝 絶望的に判らへんなあ、こんだけごちゃごちゃやと……
琴美 香芝さん……
香芝 ん……？
琴美 お姉ちゃん……

香芝 あゝ……
琴美 わかつてはるんでしょ……
香芝 いや……
琴美 とぼけんという……
香芝 別にとぼけてるわけや……
琴美 待ってんねんで……
香芝 待ってるって……？
琴美 だから……
香芝 お…… (何やら発見して、引っぱり出す)
琴美 そろそろ、戻らな、上……
香芝 『北原白秋童謡集』か……
琴美 (怒って) もう……
香芝 (本を開いて、頁を繰りながら) 知ってる、「待ちぼうけ」って歌……？
琴美 聞いたことあるかも、ちっちゃいとき……
香芝 (読む) 「待ちぼうけ 待ちぼうけ／ある日 せつせと 野良かせぎ／そこへ兔が飛んで出て／ころり ころげた 木のねっこ」……
琴美 香芝さん……
香芝 (本をぱたりと閉じて) いつまで待っても、兔は来やへん……

琴美 けど……

香芝 (本をその辺に置き) 畑が荒れるだけや……

琴美 待つなって、云うんですか……？

香芝 いゝや、無駄やと云うてる……

琴美 ……

香芝 ……

琴美 それで……

香芝 え……？

琴美 見つかったんですか……

香芝 いや、見つかれへん……

琴美 お皿じゃありません……

香芝 (一瞬、びっくりとする) なら……？

琴美 香芝さんの、金魚……

香芝 ……！

ト、階段の上から、花の声。

花の声 琴ちゃん、ちょっと来てー……！

琴美 (上に) ちょっと待ってー……！

そして琴美は、ちらと香芝を見遣ると、そくそくと階段を昇っていく。残された香芝は、束の間、辺りを見渡すが、廳《やが》て、琴美を追って、階段の上に行く。

3 病む水 *L'eau malade*

ト、どこからか、女の子が現れ、香芝が置き去りにした『北原白秋童謡集』を手に取ると、中を開き、読み始める。

女の子 母さん、母さん、

どこへ行た。

紅い金魚と遊びませう。

母さん、歸らぬ、

さびしいな。

金魚を一匹突き殺す。

まだまだ、歸らぬ、
くやしいな。

金魚を二匹締め殺す。

なぜなぜ、歸らぬ、
ひもじいな。

金魚を三匹捻ぢ殺す。

涙がこぼれる、
日は暮れる。

紅い金魚も死（しい）ぬ、死ぬ。

母さん怖いよ、
眼が光る。

ピカピカ、金魚の眼が光る。

（北原白秋「金魚」）

女の子、読みながら花道に消える。

ト、階段を、琴美と花が降りてくる。

花 （降りながら）もう、叔母ちゃんたら、こんどは九谷の徳利やなんて、往生際悪すぎや

わ……

琴美 ほんま……

花 だいたい、九谷の徳利なんて、見たことあれへんで、わたし……

琴美 右に同じ……

花 え、琴ちゃんもないの……？

琴美 （探し始める）ほんまにあるんやろか……

花 （探し出す）昔あった、いうたかてなあ……

琴美 あれ、こゝにあった本……

花 どないしたん……？

琴美 （独り言ちる）しもたんかな……

花 なあ、叔母ちゃんが子供のころって、何年前……？

琴美 え……さあ……

花 琴ちゃん、いくつやったっけ……？

琴美 二十六……
花 もう……？
琴美 まだ……！
花 いちおう気にするんや、琴ちゃんでも……
琴美 どういうことよ……？
花 「バリバリのキャリア・ウーマン」やのに……
琴美 あんたかて、そのうち、シミジミ実感するときがくるわ……
花 ふーん……
琴美 花……
花 なに……？
琴美 あんた、どこ受けるの……？
花 決めてへんけど、やっぱ、東京かな……
琴美 ふうん……
花 なによ……
琴美 わたしの部屋、アテにせんとってや……
花 え、そうなん……なんで……？
琴美 この家に戻ったりして……
花 は……？

琴美 ほら、この納戸なんか、結構えゝ感じやん……
花 琴ちゃん……？
琴美 嘘々、心配せんかて、居候ぐらいさせたるよ……
花 うーん、琴ちゃんちに居候したら、なんか、奴隷にされそう……
琴美 家賃分くらいは働いてもらわんと……
花 やっぱ、やめとこかな、東京……
琴美 大阪は……？
花 だって……
春日 なに……？
花 だって……
琴美 出たいのん、こゝから……
花 琴ちゃんかて出てったやん……
琴美 わたしは、ほら……
花 ほら、なによ……
琴美 まあ、いろいろあったからさ……え、まさか、あんた……
花 ちよつと、なに想像してんのよ……
琴美 いや、その……男……？
花 琴ちゃん……

琴美 まあ、花にかぎってね……
花 なによ……
琴美 ごめんごめん……
花 ……
琴美 ……
花 春ちゃんってさ……
琴美 ……？
花 ずっと独りなんかな……
琴美 さあ……
花 なんでやる……
琴美 そんなこと、あなたの心配することやないよ……
花 けど……
琴美 あんた、まさか、それで……
花 ……
琴美 ……
花 金魚……
琴美 え……？
花 好きなんかな、金魚鉢のこと……

琴美 春ちゃんか……
花 それとも、金魚鉢のそのの世界なんか、想像もしやへんのかなあ……
琴美 好きな金魚かて、おるんやない……
花 そやろか……
琴美 金魚鉢の金魚かて、人それぞれ、あ、人やないか……
花 うん……
琴美 ていうか、ほら、ちゃんと探しいよ、さっきから、ちつとも動いてへんやん……
花 どーせ、見つかれへんて……
琴美 （構わず、探し続ける）どこ行ったんやろ……
花 さすが、大企業のキャリア・ウーマンは、働きもんやなあ……
琴美 うるさいなあ……
花 なに……？
琴美 ちゃーんと、見習いや……
花 けど、わたし、理系やし……
琴美 理系かて、OLにならへんと決まったわけやないで……
花 うー……
琴美 こっちにはあらへんなあ……
花 けどなあ、そう簡単に見つかるやろか、大昔のもんなて……

琴美 三十年前やない……
花 けど……
琴美 (探す手を止めて) あれを最後に見たんは……
花 え……
琴美 九年前のことや……
花 それって……

ト、階段の上から、高田が降りてくる。

高田 よう、琴美……
琴美 桜……！
高田 ひさしぶり……
琴美 なにしてんの、そんなところで……
高田 なにしてるって、階段おりてるんやん……
琴美 見たらわかるよ、それくらい……
琴美 そやなくて——
高田 もちろん、出させていただけと思って、ご両親のん……
琴美 桜が……？

高田 そうや……
琴美 なんで……？
高田 なんや、「部外者お断り」なん……？
琴美 そんなことないけど……
高田 わたしかって、この家、よう出入りしてたもんやで、十年くらい前には……
琴美 けど……
高田 (花に) 花ちゃんも、ひさしぶり……
花 ご無沙汰してます……
高田 もう高三……？
花 はい……
高田 もしかして、受験生……？
花 いちおう……
高田 へえ、そら大変や……
花 はあ……
高田 どこ受けるのん、地元？ やっぱ琴美みたいに東京……？
花 いやあ、まだ決められへんで……
高田 よりどりみどりってわけか、頭えゝねんな、琴美も春日さんも賢かったもんね……
花 えーと、わたし、叔母ちゃんに報告してくるわ、やっぱ見つかれへんかったって……

琴美 うん……

高田 なんや、探しもん……？

琴美 やなかつたら、おれへんて、こんなところ……

高田 なんなん、探しもんて……？

琴美 ……

花 徳利なんですけどね……

高田 徳利って、(ジュエスチャー) あの徳利……？

琴美 他にないやん……

花 いちおう、九谷焼らしいんですけど……

高田 あゝ、九谷……って、なに……？

琴美 焼き物の種類……

高田 あゝ……

花 じゃ、琴ちゃん、先あがつとくし……(ト、階段の上に行く)

高田 徳利って、きょう使うやつ……？

琴美 叔母ちゃんの命令やねん……

高田 へえ……

琴美 最初はお皿やってんけどね、探してんのん……

高田 見つかれへんかったん……

琴美 そう……

高田 そんなで、二番手が徳利か……。さすがは旧家やね、そんなんが続々出てくるとは……

琴美 たんに古いだけよ……。しかも、出てきやへんし、一番手も二番手も……

高田 あこがれるわあ、こんな家……

琴美 じゃあ、住む……？ 空いてるで、部屋……

高田 そやね……

琴美 お姉ちゃんと花だけで不用心やし、この家……

高田 結婚しやへんの、春日さん……？

琴美 ……

高田 おれへんかったつけ、彼氏……

琴美 知らへんよ、そんなこと……

高田 姉妹《きょうだい》やのに……？

琴美 あんた一人っ子やからって、姉妹《きょうだい》に幻想いだきすぎやって……

高田 そんなもんなん……？

琴美 そんなもんよ……諺にかいていうやん、「きょうだいは他人のはじまり」って……

高田 そうか……

琴美 そうよ……

高田 じゃあさ、琴美がお嬢さんもらって、こゝ引き受けたら……？

琴美 わたしが……？

高田 琴美、よう云うてたやん、この家、好きやって……

琴美 云うてたっけ、そんなこと……

高田 云うてた云うてた、せやから、琴美は地元の大学行くんやとばかり思ってたもん、わたし……

琴美 そやったっけ……

高田 そやったよ……

琴美 好きやで、わたし、この家……

高田 ほら……

琴美 ときどき思うねん、このごろ……

高田 うん……

琴美 戻ってこよかな、って……

高田 じゃあ、戻りいや……

琴美 うーん……

高田 琴美らしくないやん……

琴美 て云われたかてなあ……

高田 なによ、それ……あ、そうか、彼氏が東京の人かあ、ごめんごめん、そらそうやわなあ、もう長いもんなあ、東京、高校出てからやから、えーと、八年か、そら、戻ってこられ

へんか……

琴美 おらへんて……

高田 ウソーっ、おれへんの……？

琴美 うん……

高田 えー、東京やったら、え、男、腐るほどおるんとちやうん……？

琴美 おらへんおらへん……

高田 えー、東京やったら、合コンとかしまくりなんとちやうん……？

琴美 しやへんしやへん……

高田 えー、東京やったら、上司と不倫とかなんとちやうん……？

琴美 いや、東京やなくてもあるやろ、不倫は……

高田 けど、不倫はアカンでー、というか、オッサンはやめとき、オッサンは所詮オッサンやでー、スーツ姿に騙されたらアカン、休日とか変な恰好やでー、若い子に無理して合わせよ思て、妙テケレンなシャツとか着よるし、裸になったら吃驚するくらい腹出てるし、禿てくるし、加齢臭するし、東京やったら……

琴美 東京、関係ないやん、なんでそんな歪んだ東京観もってんねんな……だいたい、不倫の指摘が具体的すぎるし……

高田 いや、ちよっと……

琴美 あんたもしかして……

高田 過去よ、過去のことよ……
琴美 で……？
高田 で、って……？
琴美 決まってるやん……
高田 なにが……？
琴美 桜、いま、男は……？
高田 うーんと……
琴美 なによ……
高田 それがねえ……
琴美 え、やん、教えてよ……
高田 微妙……
琴美 微妙って……？
高田 まあ、おると云えばおるし、おらんと云えばおらん……
琴美 なに、それ……？
高田 でね……
琴美 うん……
高田 訣れよっかなあ、と……
琴美 また、どうせ、別の人が好きになったんやろ……

高田 どうせって、どういうことよ……
琴美 それが桜のパターンやったやん、高校んときから……
高田 苦しんでんねんから、わたし……
琴美 はいはい……
高田 琴美って、昔から、そうやった……
琴美 なによ……
高田 勉強ができて人気があって、失恋ばかりしてたわたしみたいなんには、ずっと鈍感で……
琴美 桜……
高田 そんなんやから、香芝さんにも——（口にしてから、しまったという顔）
琴美 ……どういう、意味……
高田 えーと……
琴美 ……
高田 それは……
琴美 まさか……
高田 そう……
琴美 じゃ、きょうも、香芝さんに会うため……
高田 （そしらぬふり）……

琴美 香芝さんから聞いたん、わたしのこと……？
高田 うん……
琴美 じゃあ——
高田 わたしが、聞き出した……
琴美 ……
高田 琴美……
琴美 え……
高田 春日さんは……
琴美 知ってるわけ、ないやん……
高田 うん……
琴美 ちょうど、九年前……
高田 うん……
琴美 日曜日やったから、午前中に部屋行って、午後に帰ってきたら……
高田 琴美……
琴美 まあ、いまに到るまで男に恵まれへんのも、天罰かもね……
高田 琴美……
琴美 まあ、ワカゲのイタリってやつ……？
高田 ……

琴美 で、桜は……？
高田 香芝さんが、こゝへ転勤で戻ってきたときに、たまたま街で会って……
琴美 去年……？
高田 そう、去年の秋……
琴美 ふうん……
高田 最初は、琴美の友だちやって、憶えてくられて、わたし、男と訣れたとこやったから、
つい……
琴美 はあ……なんと云うてよいのやら……
高田 けどね……
琴美 なによ……
高田 代わりにしかなれへんのよ、結局……
琴美 代わり……？
高田 そう、代わり……
琴美 代わりって、だれの……？
高田 琴美……知らなかったん……？
琴美 うん……
高田 あの人、お姉さんがおったんよ……
琴美 お姉さんが……

高田 歳がはなれてたし、優しかったんやろね……
琴美 それが……
高田 あの人が小学生のときに、亡くならはってん……
琴美 じゃあ……
高田 そう……あの人の心のなかには、ずっと、そのお姉さんがおるねん……
琴美 ……
高田 眼でわかんねん……
琴美 眼で……
高田 (琴美に縋り付く) ……
琴美 (思い当たる) ……(高田の肩を抱いてやる)

ト、二人の背後に、女の子が現れる。
女の子は、ゆっくりと、手にしていた『北原白秋童謡集』を箱にしまう。それから、辺りを歩き回って、あちこちに散らばっていた本を、丁寧に集め、ひとつひとつ先ほどの箱にしまつてゆく。
だが、琴美も高田も、女の子の姿が見えないかのように、気付かない。
不意に、階段の上から花の声がする。途端に消え去る女の子。

花の声 琴ちやーん、叔母ちゃん、もう、九谷の徳利、えゝってー……
琴美 あ、わかったー……
花の声 あがつてきてー……
琴美 うん、いま行くー……(高田に) さ、行こ……
高田 うん……

階段の上に行く二人。

4 池の底 *au fond de l'étang*

二人が去ると、再び女の子が現れ、手にした本を読みはじめる。
ト、階段の上から声がして、またしても郡山が、今度は檀原を先にして降りてくる。

檀原 だから、幸ちゃん、危ないってば、落っこっちゃうでしよ……
郡山 だよねー

檀原 だから、間違ってるって、使い方……

郡山 ほら、早くおきて……

檀原 だいたい、わたしたちが金魚鉢狙ってたのって、もうみんな知ってるわけじゃん、だからいまさら……はーん、金魚鉢探してるふりして、別のお宝ってわけかー、さーすが幸ちゃん、欲望に忠実……！

郡山 早く早く……

檀原 あ、でも、おけるとこ、琴美ちゃんに見られてるんだからね……

郡山 だって、はやく見たいんだもん……

檀原 この状況で探すのって、ちよつとヤバくないかなあ、幸ちゃん、カード使いすぎで大変なのはわかるけどさ……

郡山 カードって、どうゆうこと……？

檀原 ほら、幸ちゃん、云ってたじゃない、先月、カードで――

郡山 (ト、女の子に気付く) あ……

檀原 え、どしたの……？

女の子 (本を置いて、郡山たちを見詰める) ……

郡山 (女の子に) えーと、知らない……？

檀原 (女の子に気付いていない) って、なにが……？

郡山 (女の子に) 金魚鉢……

女の子 (首を横に振る) ……

檀原 知ってるわけじゃないじゃん……

郡山 そっかー……

檀原 いまさら、なに云ってるのさ、もう……

郡山 そうだよー、こゝの子じゃないもんね……

檀原 あたりまえでしょ、だいたい、金魚鉢探すつのは口実で――

郡山 檀原さん……！

檀原 ハイハイハイハイ……

郡山 探して……！

檀原 ハイハイハイハイ、わかってますって、探しゃいゝんでしょ、探しゃ、お宝はどこだつと…… (探し始める)

郡山 (女の子に) 手伝ってくれる……？

女の子 (項突く) ……

檀原 だから、手伝うって云ってるじゃん……

郡山 じゃ、あっちのほう、お願いね……

女の子 (項突いて、探し始める) ……

檀原 ハイハイハイハイ……

郡山 檀原さんはあそこ……！

檀原 えーっ、だって、いま、あっちって……

郡山 あっちはいゝの、あそこ……！！

檀原 ハイハイハイハイ……でも、あそこって、妙に限定的だけど、なんか確信があるわけ……？

郡山 檀原さん……！！

檀原 ハイハイハイハイ……（一角に置かれたキャビネットのような箱の扉を開けて、中を覗き込む）えーと、これ？ これのこと？ うわー、低い、そして狭ーい……

郡山 さ、さ……（ト、促す）

檀原 えっと、這入るの？ ちょっと、また暗いんだけど……（ト云いながら、潜り込む）

郡山 さ、つめてつめて……

檀原 え、幸ちゃんも這入るの……？ それはちよつと窮屈じゃないかなあ……

郡山 だって、こんなとこに隠されてるほうが、お宝っぽいじゃん……

檀原 いや、徳川埋蔵金やナイルの秘宝じゃないんだから……

郡山 ほらほら……（ト、檀原を押し込むと、自分も強引に潜り込む）

檀原 これ、どう考えたって、身動きとれないでしょう……

郡山 檀原さん、狭い……！！

檀原 ほら、云わんこっちゃない……

郡山 鰻……！！

檀原 この場合、関係ないでしょ、鰻は……

郡山 鰻なら狭くない……

檀原 いや、そうかもしれないけど、いちおうわたしたち人間だもの……

郡山 ほらほら……

檀原 あ、あれ、行ける、先に行けるよ……！！

郡山 ほらほら……

檀原 え、いゝのかな、行っちゃって……

郡山 ほらほら……

檀原 ヤバくない、これって……？

郡山 ほらほら……

遠ざかる二人の声。

ト、春日が降りてくる。

春日 叔母ちゃんも、徳利あきらめたと思ったら、こんどは九谷の灰皿やって、そんなん見たことあれへんで……

ぶつくさ云いながら、適当にその辺を見て回る、春日。

ト、女の子に気付く。

春日 あ……

女の子 ……

春日 茜ちゃん……？

女の子 ……

春日 茜ちゃんやんな、玉藻叔母ちゃんこの……

女の子 ……

春日 なにしてんのん、こんなところで……あ、そうか、お母さんに九谷焼のなんか探してこいて云われたんやな……

女の子 ……

春日 まあ、叔母ちゃんも、根は悪い人やないんやけど、融通のきかへんところあるからな……

女の子 ……

春日 わたしはな、灰皿、そんなもん見たことないんやけどなあ……（ト、先ほど女の子が読んでいた本に眼を留める）ん……？ 萩原朔太郎……？（と云いながら、本を手にして、ぱらぱらと捲へめくり始める）

女の子 （黙って、春日の行為を見ている）……

春日 さくらの花はさきてほころべども、か……

女の子 ……

春日 金魚の詩って、暗いやつが多いなあ……

女の子 ……

春日 （女の子の服に眼を遣り）ねえ、茜ちゃん、金魚、好き……？

女の子 （項突く）……

春日 金魚すくい……？

女の子 （首を横に振る）……

春日 わたしは好きやったな……その神社の縁日になると、かならずやりにいったわ、金魚すくい……

女の子 ……

春日 でも、どっちかっていうと、自分ですくうより、ひとがすくってんの見るほうが好きなんかもしらへん……ちっちゃかったころはな、お父さんにすくってもらってんの、じっと見てたし、小学生とかになったら、友だちの男の子がすくってんの眺めてた……その子、金魚すくいが上手で、金魚すくいの紙が、水に濡れて、だんだん破けてきても、その状態で、まだ何匹もすくえんねんよ……

女の子 （微笑む）……

春日 まあ、ちよつとした金魚すくい名人やったね……

女の子 ……

春日 で、いっぺんなんか、山のように金魚すくってくれて、うちにあった金魚鉢やと、はいりきらへんようになるくらいで……

女の子 ……

春日 いっぱいの金魚鉢から金魚がとびだしてもうて……

女の子 ……

春日 かわいそやった……

女の子 ……

春日 でも、それから、金魚鉢、おつきくして……

女の子 (微《かす》かに身じろぐ) ……

春日 あ、でも……

女の子 ……?

春日 昔、雨の日にね……

女の子 ……

春日 雨の日に、縁側で、金魚を手の甲にのつけて遊んでたら、庭の池のなかに、ぼちゃん、て……

女の子 ……

春日 落っこちちゃった……

女の子 ……

春日 それつきり……

女の子 ……?

春日 もしかしたら、いまでも、池の底におるかもしらへんね……

女の子 ……

春日 ……

女の子 ……

春日 わたしねえ、なんや、この納戸におると、おちつくねん……

女の子 (辺りを見回す) ……

春日 こゝって地下やし、なんや、池の底みたいな感じするやん……

女の子 (項突く) ……

春日 わたし、池の底でじっとしてる金魚みたいなもんかもしらへん……

女の子 ……

春日 じつと……

女の子 (上を見あげる) ……

春日 上……?

女の子 (見あげたまゝ) ……

春日 (見あげ) 池の上……?

女の子 (ポーズ) ……

春日 それって……
女の子 (春日を見る) ……
春日 金魚かって、どこまでも、およいでゆける……
女の子 (項突く) ……
春日 茜ちゃん……
女の子 (つと立って、一冊の本を取ってくると、春日に差し出す) ……
春日 これ……
女の子 ……
春日 「夜のガスパール」……
女の子 (微笑む) ……
春日 (頁を繰り) 「いまひとたびの春よ——いまひとすぢの五月の陽の光よ」……
女の子 (項突く) ……
春日 けど……
女の子 ……?
春日 こゝは、地下やから……

ところへ、花が降りてくる。

花 春ちゃん、聞いてえな、もう、狐叔母ちゃんてばさあ——
春日 (駆け寄って) 花ッ……
花 どないしたん……?
春日 茜ちゃんが……
花 茜ちゃんて、あの茜ちゃん……?
春日 そう、玉藻叔母ちゃんとこの……
花 げ……
春日 ほら……

ト、振り返ると、女の子の姿が消えている。

春日 あれ……?
花 茜ちゃんは……
春日 どこいってしもたんやろ……?
花 春ちゃん、疲れてんとちゃう……?
春日 いや、ちゃんと、さっきまでそこに……
花 (辺りを見回し) かくれんぼするような歳でもないやろに……
春日 おかしいなあ……

花 もしかして、今のん、聞こえたんや……
春日 それって、告げ口しに行ったってこと……？

花 ヤバ……

春日 まさかね……

花 けど、階段以外に、上いけへんはずやしな……

春日 花こそ、なにしに降りてきたんよ……

花 それがさ、叔母ちゃん、いまごろなあって、箸置き探せっていうんよ……

春日 箸置き……？

花 それも九谷焼の……

春日 九谷の箸置き……なんや、どんどん細かくなっていつてるな……

花 な、ありえへんやろ……

春日 うん……

花 このぶんやったら、きつとつぎは「九谷の爪楊枝」とか云いだすんちやうやろか……？

春日 まさか……

花 けど、茜ちゃんも大変なんやろなあ、あんなが母親やと……

春日 ちよつと、花、云い過ぎ……

花 でも、考えたら、わたしら、茜ちゃんの性格、知らへんし……

春日 え、子やよ、茜ちゃん……

花 知ってるの、春ちゃん……？

春日 まあ……

花 なんで……？

春日 さつき、ちよつとお話したから……

花 そんなこと云うて、猫かぶってるだけやったりして……

春日 なにアホなこと云うてねんな……

花 おっと、猫だけに聞き耳立て、なんてことは……

春日 もう……

花 茜ちゃんも、受験生んなったら、さつきと下宿に逃避やね……

春日 花……

花 なに……？

春日 そういえば、ちゃんと聞いてへんかったね……

花 なんやの……

春日 大阪の大学、受けへん理由……

花 そんなん、云うてるやん、勉強したい学科が……

春日 生物学なんて、どこにかたあるやん……

花 そんな、ジツパヒトカラゲに云わんとしてよ……

春日 ま、え、か……

花 ……
春日 えゝなあ……
花 なによ……
春日 若いってことは、可能性があつて……
花 なに云うてんの、まだまだ若いやんか、春ちゃんかて……
春日 そう……？
花 そうそう、わたしが出てったら、身軽なもんやろ……
春日 え……
花 春ちゃん……
春日 なに……
花 ごめん……
春日 なによ、急に……
花 うゝん、なんでもない……
春日 花、あんた、まさか、そんな理由で……
花 ちゃうちゃう、そやから、なんかいも云うてるやん、わたしの行きたい学科が――

そこへ、降りてくる琴美。

琴美 お姉ちゃん、花ちゃん、聞いてえな、もう、玉藻叔母ちゃんてばさあ――
春日 琴美……
琴美 なに……？
春日 いま、茜ちゃんとすれちがわへんかった……？
琴美 茜ちゃん……？
花 ほら、玉藻叔母ちゃんとこの……
琴美 いや、全然……
春日 そう……
琴美 それよりさあ――
花 なによ、今度は……
春日 わたし、灰皿……
花 わたし、箸置き……
琴美 わたし、金魚鉢……
春日・花 金魚鉢……！
琴美 九谷焼の……
春日・花 九谷焼……！
花 ありえね――……
琴美 やろ……？

花 もはや妄想の域やね……
琴美 コーネンキショーガイってやつやろか……
春日 それは違うのでは……
花 あゝ、憧れの更年期障害……
琴美 なんちゅうもんに憧れてんねんな……
花 だって、あれって、もう、毎月のお客さまを迎えんでもえゝんやろ……？
春日 まあね……
琴美 因果関係が逆やけどな……
花 (下腹に手を当て) だって、なんか、イヤな予感が……
春日 いろいろメンドクサイな、女って……
琴美 (笑って) どないしたん、お姉ちゃん……
春日 (ふっと、なにかを感じたように) 金魚のにおい……
琴美 (訝「いぶか」しげに) 金魚……？
春日 うゝん、なんでもない……
琴美 ヘンなの……
春日 でも、あれって、男の人にもあるらしいよ……
花 え、男の人にも……！
春日 いや、更年期障害の方がやけど……

琴美 へえ、そうなんや……
花 でも、男の人の場合、なにが原因で……？
春日 さあ……やっぱ、あれやない、心身の疲労とか……
琴美 あゝ、それやったら、けっこうヤバイかも……
春日 だれが……？
琴美 ウチの係長……

ト、潜り込んだところから出てくる檀原。

檀原 あー、たしかにヤバイよねー、あの係長、うんうん……
琴美 どっから出てくんのよ……！
檀原 いやあ、なかなか興味深い構造ですね、こゝ、もしかして、その昔は忍者屋敷だったとか……
琴美 (春日に) そうなん……？
春日 なわけないやん……
琴美 で、なによ、相変わらず探してんの、金魚鉢……？
檀原 いや、まあ、幸ちゃんがねえ……
琴美 その幸ちゃんは……？

檀原 わたしの後から……あれッ……？

檀原、出てきたところに駆け寄り、中に向かって叫ぶ。

檀原 おーい、幸ちゃん……！

花 消えちゃった……？

琴美 んな、アホな……

檀原 どうしたんだろう、幸ちゃん、隠れてないで出ておいでよー、うなぎパイあげるから
ー……！

そこへ、降りてくる玉藻。

玉藻 もう、みんな、はよ準備《まわり》しんと、お客さん来てまうやんか、さっさと探して、

上にあがってきてもらわんと……

檀原 その、幸ちゃんが消えちゃいまして……

玉藻 はあ……？

花 郡山さんが、行方不明やねん……

玉藻 郡山さんて、東京から来た、あの卦体《けつたい》な子かいな……

檀原 まあまあ、叔母さん、あゝ見えて、幸ちゃん、悪い子じゃないんですよ、ちよつと風変わりなだけで……

玉藻 ちよつとやないやろ、ちよつとや……

檀原 まあ、ときどき、なんか見えたりするみたいですけど……

花 見える……？

檀原 ハイ、こう、天使とか……

玉藻 あんた、それ、単にアブナイ人なんとちゃうんかいな……

檀原 いえ、まあ、気のせいでしょ……

玉藻 どっから出てくんねんな、その確信は……

檀原 だって、いるわけないじゃありませんか、天使なんて、それとも、まさか、叔母さんも見えるとか……？

玉藻 ロンリのヒヤクもハナハダしいな、見えへんがな、そんなもん……

花 でも、似てるかも……

玉藻 なにが……？

花 叔母さんと郡山さん……

玉藻 （花に詰め寄りながら）どこが……？

花 （後じさりながら）えーと、それは……

玉藻 また、強欲やとかなんやとかいうんやろ、あんたらが、蔭でどない云うてるかなんて、

ちゃーんとお見通しやからね……！

花 いえいえいえ……

檀原 あ、それだったら違いますよ……

玉藻 なにがちゃいますの……？

檀原 幸ちゃんは、強欲なんじゃなくって、欲望に忠実、つまり、ピュアなんですよ……

玉藻 あゝ、つて、リクツになつてへんわ……！

花 でも、ピュアな人に天使が見えるつて、納得できるけどな……

玉藻 なにを云いだすねんな、あんたまで……

檀原 お墓とかでも、ずいぶん見えるとか云つてましたね……

玉藻 天使ちやうやろ、その場合……！

花 まあ、普通やないもんが見えるつてことで……

玉藻 あんたも、そない簡単に纏めなッ……！

ところへ、高田が降りてくる。

高田 えッ……なにしてるんですか、こんなところで……？

琴美 探し物……

高田 みんなも……？

花 わたしは九谷の箸置き……

春日 わたしは九谷の灰皿……

琴美 わたしは九谷の金魚鉢……

檀原 で、わたしはふつうの金魚鉢を……

琴美 わたしの会社の同僚やねん……

高田 琴美の……

琴美 (高田を示し) 中学、高校の同級生やった高田さん……

高田 ふつうの金魚鉢つて……？

春日 少なくとも、九谷焼やないのはたしかやけど……

琴美 (高田に) それ見るためだけに、わざわざ、東京から来たんやで……

檀原 いや、その、まあ……

春日 でもねえ……

檀原 この納戸のどっかに埋もれてるそうなんですけど、なかなか見つからなくつて……

春日 だいぶ前やもんね、しもたん……

檀原 しかも、是非見たいつて云つてた子が、これまた埋もれちゃいまして……

琴美 いったい、どこに潜り込んでたんよ……

高田 その金魚鉢、もしかしたら……

春日 どうかしましたか……

玉藻 どうでもえゝがな、九谷焼やない金魚鉢なんて……あ、そういうたら、どっかにあるはずなんやけどねえ、九谷焼の葉《しおり》……

檀原 あるんですか、そんなもん……!

玉藻 いっぺんだけやけど、お義兄さんが使こてはったのを見た記憶があるんよ……

花 そんなん、焼き物やで、こーんな分厚いのん、本にはさめへんやん……

玉藻 狸窟ではそうやけど、わたしの本能が告げてんのよ、あつたつて……

花 野生動物やないねんから……

琴美 さすがは九尾の狐叔母ちゃんや……

玉藻 なんか云うた……?

琴美 いえいえ……

玉藻 まあ、そんなに較べたら、ガラスの金魚鉢やなんて……

檀原 でも、お宝なんでしょ、それ……

玉藻 え、お宝……?

檀原 ハイ、そう伺《うかど》ってますけど……

玉藻 どどこどこ……?

花 ほら、やっぱり強欲や……

春日 ふつうの金魚鉢やから……

玉藻 (檀原に) ほな、なんで、お宝……?

檀原 いや、なんでも、春日さんにとってだいじなものだとか……

玉藻 (春日に) 春ちゃん、あんた、いつまでたっても独身や思たら、そないな秘密が……!

琴美 いや、独身とは関係ないやん……

玉藻 (春日に) さ、叔母ちゃんがアンジョウしといたるから……

花 ちよつと、叔母ちゃん……

玉藻 いや、春日かて、この家の気に掛かることがのうなつたら、気軽に嫁にいけるんやないかなと……

琴美 お婿さんを迎えるかもしらへんやん、土地付き一戸建てつてえゝと思うけど……

春日 ちよつと……

琴美 お姉ちゃんがもらわへんのやつたら、わたしが結婚して、こゝに住んでもえゝで……

玉藻 えつ、琴美、あんた、そないな野望を抱いてんのかいな……!

琴美 いや、叔母ちゃんのほうが、よっぽど野望や……

春日 琴美……

琴美 え……

春日 あんた、帰つてきたいのん……

琴美 それは……

玉藻 琴美、これは重要なモンダイやで……!

花 それは叔母ちゃんにとってだけやろ……

春日 えゝよ……

花 春ちゃん……

玉藻 春日！ なに云うてんの、琴美は都会の大企業の大OLさんやで、そんなこつから通われへんで……

花 春ちゃんがそんなこと考えるはずあらへんやん……

琴美 わたしは……

玉藻 まさか、戻ってきたいとか……？

花 そんなことないやんね……

琴美 うん……

玉藻 そやろー、そやそや、そうに違いない、バリバリのキャリア・ウーマンが、こないな田舎にUターンしたいはずあらへんがな……

琴美 わたしは……こゝが、この家があるからこそ、都会でも、ずっと、がんばって……

春日 そんなら……

琴美 ……？

春日 そんなら、わたしの代わりに、こゝに住んでよ……

一同 ……

春日 そうやないんやったら……出てってよ、みんな……

花 春ちゃん……

春日 この家は、わたしのもんやから……

琴美 なんで、わたしたちのもんやんか……

春日 わたしには、もう、この家しか、ないから……

花 わたしかって、琴ちゃんかっておるやん……

春日 花かて、どうせ出てくやない……

花 それは……

春日 ずっと、この家に閉じ込められて……

琴美 お姉ちゃん……

花 わたしは、春ちゃんに、自由ななってほしいて……

春日 だって……

花 だから……

春日 そんなん云うたかて、いまさら、もう……

玉藻 なに云うてんねんな、あんた、まだまだこれからやんか、そやからこの家のことは、わたしにドーンとまかせて——

花 叔母ちゃんは黙って……！

玉藻 (あんぐり) ……

花 わたし、ずっと、春ちゃんにあまえてた、金魚鉢のなかの金魚みたいに、世話してもらってた、だから……

春日 どないしたらえゝの、わたし……
一同 ……
榎原 そうだ……！
玉藻 なんやねんな、藪から棒に……
榎原 金魚鉢ですよ……
玉藻 あんた、シンコクな話の最中に、なに云い出すねんな……
榎原 いゝですか、これは結局、金魚鉢の話なんです……
玉藻 なに、わかったような口きいてんねん……
榎原 つまり、金魚鉢さえ見つかれば……
玉藻 関係ないやろ、金魚鉢、大体、見つかってもおらへんやないの——
ト、這入ったことは、全然違う場所から出てくる郡山。

郡山 (手に持ったのを示しつゝ) 金魚鉢なら、こゝに……
玉藻・榎原 おゝ……！
榎原 幸ちゃん、どこ行っちゃったの、心配したじゃん……
郡山 だよね……
榎原 いや、だからね……

高田 それ、春日さんの金魚鉢……？
榎原 さあ……
玉藻 どこにあったんよ、それ……
郡山 うーんと……
一同 ……
郡山 どっか……
玉藻 バカしとつたら承知しいひんで……！
榎原 まあまあ……
花 春ちゃん……
春日 えゝ、わたしの、金魚鉢です……
榎原 お手柄じゃない、幸ちゃん、ほら、こっちに持ってきて……
郡山 うん……

ト、持っていきかけたところを、高田が奪い取る。

琴美 桜……！
高田 ……
琴美 どないしたんよ……？

高田 これ、ください……
琴美 え……？
高田 これ、ください、わたしに……
琴美 桜……？
郡山 櫃原さん、とりかえして……！
櫃原 別のモンで手を打とうよ……
琴美 どないしたん、桜……？
春日 高田さん、どうして、それを……？
高田 気に入らへんのよ……
琴美 なにが……？
高田 なにかも……
琴美 なにかも、って……
高田 なにかもよ、仕事も、男も……
琴美 桜……
春日 でも、どうして、金魚鉢を……
高田 それは……
春日 それは……？
高田 (階段の方を指さし) あの人のせいよ……

階段を見る一同。

そこには、香芝が立っている。

春日 香芝君……？
琴美 なんでこゝに……
高田 わたしが呼び出したんや、ふたりきりで会いたいからって……
春日 ふたりきりって……
琴美 (春日に向かい、項突いてみせる)……
香芝 (高田に) 誤算やったな……
高田 大誤算やったわ、納戸やったらこっそり話しできる思ったのに、こんなにいっぱいいてるなんて……
春日 でも、なんで、香芝君のせいやって……
琴美 お姉ちゃん、それは……
春日 なに……？
琴美 いや……
高田 琴美、黙ってんかてえゝよ、わたしのこと……
琴美 でも……

高田 云うたらえゝやん、男に見境のない女やって……
香芝 桜……

高田 香芝さんは、どうなん……？

香芝 どうって……

高田 もしかして、琴美のことを、まだ……

琴美 桜ッ……

高田 香芝さんて、昔のこと、引きずる性質《たち》やから……

香芝 ……

高田 琴美かて、こっちに戻ってきたという理由は、もしかして、まだ……

琴美 アホなこと云わんとってよ……

香芝 桜……

高田 なによ……

香芝 引きずる性質は、おまえもや……

春日 香芝君……

高田 だって、香芝さんが、わたしを見てくれないから……

香芝 ……

高田 わたしは、たゞ、いつかって……

琴美 (高田に) もうえゝやん、な、もう氣いすんだやろ……

高田 みんな、勝手やわ……

春日 高田さん……

高田 琴美かってそうや、春日さんずっと親代わりにして、家に縛り付けといて、勝手に東京行って、いつかて、わたしは、琴美に勝たれへんで……

琴美 桜……

高田 だから、こんなもん……！

高田、やにわに金魚鉢を床に叩き付けようとする。

ト、身を躍らせた香芝が、金魚鉢を抱え込むようにして、庇う。

琴美 香芝さん……

香芝 あかん……！

春日 香芝君……

香芝 返してくれ……

花 だって、それは春ちゃんの――

香芝 違う……

花 え……

春日 香芝君がくれたの、子供のころ……

花 じゃあ、それは……
香芝 ……

高田 この人が小さいころに亡くなった、お姉さんの遺したものよ……！

琴美・花 お姉さん……？

香芝 そう……これは、姉さんの、唯一の……

花 なんでそれを春ちゃんに……？

香芝 それは……

高田 似てたからよ……

花 似てた……？

高田 春日さんに……！

香芝 姉さんは、いつかて、俺を守ってくれた……でも、その姉さんは、ある日……

高田 事故で亡くなったんでしょ、でも、そんなことで……

香芝 手紙があったんや、姉さんの……そこには、こんな詩が書いてあった……「暗い、さ
みしい、土のなか、／金魚は なにを みつめてる。／夏のお池の 藻の花と、／揺れ
る光の まぼろしを。」（金子みすゞ「金魚のお墓」）……

琴美 まさか、お姉さん……

高田 けど事故やって、警察も、事故やって……

香芝 手紙があったことを知ってるのは、俺だけや……

高田 じゃあ……

香芝 手紙は、子供部屋の押し入れにしまわれてた、この金魚鉢に入れられて……

琴美 そんな……

香芝 それで、俺は、わからんようになった、近所の池にはまって死んだ姉さんは、事故死や
ったのか、それとも……

琴美 でも……

香芝 俺は、姉さんを守れへんかったんや、姉さんは、あんなに俺を守ってくれたのに……

琴美 それが、香芝さんの……

花 けど、なんで、お姉さんの金魚鉢を、春ちゃんに……？

香芝 あの日、春日にはじめて金魚をすくってやったあの日、はしやく春日の姿が、姉さんに
だぶって……

琴美 それでお姉さんのことを……

花 いつまでも、忘れへんために……

春日 香芝君……

高田 いつまでもって、いつまで抱えてんのよ……！

香芝 ……

高田 こんなガラクタ……！（奪い取ろうとする）

香芝 やめろ……！

琴美 桜ッ……!! (制止する)
高田 (しゃがみ込み) なんて……なんで、いつまでもお姉さんなんよ……
香芝 それは……

ト、花道に女の子の姿が浮かび上がる。ハッとする香芝と春日。

香芝 姉さん……!!
春日 え……

女の子、二人に近付く。

香芝 (呆然) ……
春日 お姉さん……?
香芝 (項突く) ……
春日 あ、あそこの池、端《はた》から、魚の背中が見えたんや……
女の子 (項突く) ……
香芝 ……
春日 じゃあ、金魚の背中が見えた……?

女の子 (項突く) ……
香芝 ……
春日 近づきすぎたんやね……
香芝 ……
春日 好きやったんか、金魚……
女の子 (項突く) ……
香芝 ……
春日 香芝君、金魚すくい上手だったん、お姉さんを喜ばすためやったんやな……
香芝 ……
春日 うちのお父さんに習ってたもんやから、てっきり、わたしのために練習したんやって、誤解してたわ……
香芝 ……

女の子、香芝の手から、ゆっくりと金魚鉢を取り上げる。呆然として、取られるがまゝの香芝。

香芝 姉さん……!!
春日 優しかったんやな、お姉さん……

香芝 あゝ……

春日 (金魚鉢を指し) それ、長い間、ありがとう……

香芝 ……

春日 けど、それには、わたしの思いもいっしょなってる……

不意に、女の子、金魚鉢を奥に放擲する。ガチャンという音。慄然とする一同。

檀原 見ました、いまの……？

花 金魚鉢が……

琴美 空中浮遊……

花 念動力《サイコネシス》……

琴美 遠隔感応《テレパシー》……

檀原 (郡山に) 幸ちゃん、まさか、そんな能力まで……？

玉藻 バビル2世やあるまいし……

女の子、ゆっくりと花道を去りはじめる。

香芝 そんな……姉さん……

春日 そうか……

香芝 ……

春日 えゝんや、忘れてしもたかて……

香芝 なんやて……

春日 想いはもう、だれのもんでもあらへん……

香芝 ……

春日 想いのためには、形もいらへん……

女の子、振り返って、微笑む。

香芝 姉さん……

女の子 金魚はいきするたびごとに

あのお囁の継子《まゝこ》のやうに
きれいな寶玉《たま》をはくのです。

(金子みすゞ「金魚」)

花 あ……

檀原 どうかしましたか……？

花 いま、なんか、聞こえへんかった……？
檀原 いえ、別に……
花 そっか……
郡山 檀原さん、聞こえなかったの……？
檀原 え、聞こえたの、幸ちゃん……？
郡山 ヴィタミンA不足……！
檀原 いや、あれは、眼の方だから……

女の子、去る。

香芝 想いは、もう……
琴美 お姉ちゃん、香芝さん、どないしたん……
春日 うゝん、なんでもない……
玉藻 いや、なんでもないって、普通やないで、あれ……
春日 ちよつと、手がすべっただけや……
玉藻 ごつついすべりかたやな……！ （ト、腕時計を確認して）あ、アカン、もう時間やがな、チツ、今年をあきらめるか、九谷焼の栞……
檀原 あきらめてなかったんですか……！

玉藻 さ、ほら、みんな、上あがるで、上……
琴美 でも、なんで、金魚鉢……
春日 えゝねん、もう……
花 だって……
春日 な、香芝君……
香芝 そやな……
春日 形はな、えゝねん、もう……
花 カタチ……？
春日 うん……
一同 ……
郡山 あ……
檀原 どうしたの、急に、幸ちゃん……？
郡山 金魚鉢だったら、まだあるよ……
花 まだあるて……？
郡山 さつき、（潜り込んだ場所を示し）その奥で、偶然発見しちやった……
檀原 幸ちゃん、それって……
郡山 ハイ…… （ト、九谷焼の金魚鉢を取り出して見せる）
檀原 九谷の金魚鉢……？

春日・琴美・花（仰天）ほんまにあつたんや……！
玉藻 ホーツホツホツホツ……

暗転。

5 たゆたふ金魚 *les poissons rouges flottants*

ほんとうにゆっくりと、一条の光が差してくる。

その光の中、女の子がシャボン玉を吹きながら遊んでいる姿が浮かび上がってくる。徐々に明かりの輪が広がるにつれて、女の子も立ち上がって動き出す。

やゝあつて、香芝が現れる。暫《しば》し、女の子がシャボン玉に興じるのを眺めている。ト、気付いた女の子が、彼を手招きする。光の輪の中に歩み入る香芝。女の子からシャボン玉の道具を渡されて、吹きはじめる。無心に遊ぶ二人。いつしか、二人は縁日に居る。

ふと、女の子が、ある方を指さす。二人、その方に駆け寄ると、女の子がりんごアメを買う。ひとなめすると、香芝に渡す女の子。

また、女の子が、別の方を指す。二人、その方に走り寄ると、射的を始める。ト、女の子、香芝の手を引くようにして、舞台の正面に来る。そこは、金魚すくい屋台だ。まず香芝がすくうが、なかなかすくえない。代わって女の子がすくってやる。

ヴィニル袋に入れてもらった金魚を、香芝に渡す女の子。その袋を嬉しそうに眺める香芝。その周りで、女の子、再びシャボン玉を吹きはじめる。シャボン玉、金魚の吐く泡のように見えて――。

そんな中、女の子、光に溶けるように消えてゆく。女の子の姿が見えないことに気付く香芝。周章《あわ》てゝ辺りを探すが、女の子は見つからない。彼女は消えたのだということを理解する香芝、見えないヴィニル袋を手にしたまゝ、さみしげに立ちつくす……。

やゝあつて、舞台全体が明るむと、少し片づいた納戸。大抵の物の上には布が掛けられている。

中央に、朽ちた机とぼろぼろの椅子。

ト、春日が降りてくる。

春日 なにしてんのん、こんなところで……

香芝 (微笑って) ちょっとな……
春日 ふうん……
香芝 行くわ……
春日 飲んでっいたらえゝのに、お茶くらい……
香芝 まあ、また今度な……
春日 そう……
香芝 近いから、春日の引越すところから……
春日 うん……
香芝 また……
春日 あ……
香芝 なんや……
春日 忘れたん、お姉さんのこと……？
香芝 あゝ……
春日 ……
香芝 けど、いつかてどこでかて、出会えるから……
春日 うん……
香芝 ……

香芝、階段に去る。

見送った春日、お茶の道具を並べながら、歌う。

春日 赤いベベ着た
可愛い金魚
お眼《めめ》をさませば
御馳走するぞ

赤い金魚は
あぶくをひとつ
晝寝うとうと
夢からさめた
(鹿島鳴秋「金魚の晝寝」)

花が降りてくる。

花 変やな、お昼寝する金魚やなんて……
春日 しやへんのん、昼寝……？

花 (椅子に坐わりながら) 夜は寝るけどね、そやから、夜は、ちゃんと電気消して、暗あしたらな……

春日 (想い出したかのように) 金魚って、長いかな、寿命……

花 金魚鉢にほりこんどくだけとかやったら短いやろね、でも、ちゃんと飼うてたらけっこう長生きするみたい……

春日 長生きなんや……

花 うん、一説によると十年以上……

春日 へえ……

花 二十五年も生きた例があるらしいで……

琴美の声 さすがは水産学部生、よう知ってる……

琴美が降りてくる。

琴美 なんや、香芝さん、帰ったんや……

春日 用事あんねんで……

琴美 ふうん……

春日 片づいた、上……?

琴美 大体ね……あの二人がママに働いてくれたから……

花 なんで今年も来てくれたん、郡山さんと檀原さん……?

琴美 さあ、引越しやって聞いて、また、なんか、お宝を探すつもりやったんとちゃう……?

花 檀原さんたちは……?

琴美 降りてくるよ、もうすぐ……

春日 用意しよつか……

三姉妹の、さゝやかなティー・パーティーが始まる。

琴美 憶えてる、去年のこと……?

花 忘れよ思っても忘れられへんわ……

琴美 想いは、形やない……

花 あ、そっか、それで春ちゃん、この家も手放すことにしたんか……

春日 まあね……わたしも出直ししよ、思て……

花 (見渡して) 我が家の歴史も、明日までか……

琴美 と云うても、玉藻叔母ちゃんのものになるだけやけどね……

花 コシタンタンやったからなあ、叔母ちゃん……

琴美 きのうちでちょうど十年目やったしね、ま、一区切りってわけか……

花 春ちゃんのアパートって、新築……?

春日 いちおう……
琴美 そっか、ピアノ入れたんやもんね……
春日 うん……
花 えゝなあ、わたしの下宿なんか、おんぼろもえゝとこやで……
琴美 わたしかてそうやったよ、贅沢云わない、学生の身分で……
花 へいへい……
春日 バリバリ働いて、ガンガン稼いでるもんね、琴美は……
琴美 もう、ふっきれたからね、ガンガン行くで……
花 なんや、たゞオヤジ化したゞけみたいな……
琴美 あんたこそ、なんで、あんな南の大学にしたんよ……？
花 だって、やりたいことやれるとこに限られてたんやもん……
琴美 ふゝーん……
花 それよりさ、どうしてんの、高田さんって……？ 今年は来やへんかったけど……
琴美 結婚したで……
花 えー、そうなん……？
琴美 で、旦那の転勤にくっついてった……
花 へえ……
琴美 幸せみたいやで……

花 えゝなあ……
琴美 花も、乱れた下宿生活おくってないやろね……
花 なによ、それ……
春日 「去る者は日々に疎し」か……
琴美 どないしたん、急に……
春日 ちよつとね、去年を想い出して……
花 あ、サイコキネシス……
琴美 テレパシー……
春日 なに、アホなこと云うてんねんな……
春日 想いは形に縛られへんけど、想いそのものも、縛られへんもんなんかもね……
花 形は想いを閉じ込めず、想いは人を閉じ込めず……
琴美 珍しく文系的やな……
花 ほつといてよ……
春日 この家も、想い出から解放してあげやんとね……
花 金魚鉢から飛び出したかて、ちゃんと生きのびてる金魚かっておるんやで……
春日 そやね……
琴美 残るは、女ばっかりってわけか……
三人 ……

花 銀鮒《ぎんぶな》って、オスがほとんどおれへん鮒がおるねんけど……
琴美 え、ということば、メスばかり……？
花 そやねん、けど、ちゃんと新しい鮒が生まれるんやて……
春日 へえ……
花 なんか、銀鮒の卵に、別の魚の精子がかゝると、ちゃんと孵るらしいねん……
春日 別の魚って……？
花 鯉とか泥鰌とか……
琴美 じゃあ、鮒と鯉の……？
花 いや、精子はたんなる引き金で、生まれるのは銀鮒、しかもメス……
琴美 ふうん……
春日 銀鮒は女所帯か……
花 我が家みたい……
三人 ……
琴美 それって、やっぱり最初は突然変異……？
花 さあ……でも、金魚の祖先の緋鮒は銀鮒の突然変異みたいやけどね……
琴美 でも金魚は、ちゃんとオスとメスとおるやんね……？
花 もちろん……
琴美 ほな、この家の金魚たちにも、ちゃんとオスが……

花 琴ちゃんはムリやで……
琴美 なんでよ……？
花 だって、オヤジやもん……
琴美 オラオラ、セクハラすんぞ……！（花をくすぐる）
花 ひえー……
春日 （二人を眺めながら）もう、じき、梅雨やね……
琴美 なに、急に……？
春日 いっぱい雨ふって、そこらじゅう洪水みたいになったら……
春日 金魚も、どこへかて泳いでける……
花 けど、きょうは、アホみたいな五月晴れやで……
春日 ふれへんな、雨……
花 コースイカクリツ、0パーセント……
琴美 お姉ちゃん、お気の毒さま……
春日 うゝん……
花 なんやの……？
春日 見あげてみ、雲ひとつない青空……
琴美 なんで……？
春日 大空ぜんぶが、水の中みたいやんか……

琴美 なるほど……

春日 金魚に羽根があらへんかて、こんな日は……

花 え……？

春日 (天井を通して、空を見あげるように) こんな日は、空ぜんたいが……

ところへ降りてくる、樫原と郡山。

春日 ありがとうございます、わざわざ、来ていたゞいて……

樫原 いえいえ、こちらこそ、いろいろ戴きまして……

琴美 ゴミ持って帰ってもらみたいで、氣イ引けるわ……

樫原 ゴミだなんて、とんでもない、れっきとしたお宝ですよ、九谷の灰皿とか箸置きとか金魚鉢とか葉とか……

花 いま、お茶、淹れますね……

樫原 いやあ、恐縮なんですけど、新幹線の時間がありまして……

琴美 なんや、もう帰るん……？

樫原 はあ……

花 えー、そうなん……

春日 じゃあ——

樫原 (立ち上がりかけるのを制して) いやいや、もう、こゝで……じゃ、どうも、お邪魔し

ました…… (去ろうとする)

郡山 鰻…… (鼻をひくつかせる)

樫原 幸ちゃん、帰りの新幹線で買ってあげるから、うなぎパイ…… (去る)

郡山 じゃなくて、金魚……？

気が付くと、舞台中央に、女の子が立っている。

郡山 一年ぶりだね……

女の子 (項突く) ……

郡山 なくなるよ、こゝ……

女の子 (再び、項突く) ……

郡山 じゃあ……

女の子 (天を仰ぐ) ……

郡山 あゝ……

女の子 (郡山を見て、項突く) ……

郡山 なら、安心だね……

女の子 (みたび、項突く) ……

郡山 じゃ……

階段へと去りかける郡山。
ト、立ち止まり、

郡山 あ……

女の子 ……？

郡山 (莞爾《にっこり》と) その服、いゝよ、とつても……

女の子 (微笑んで) うん……

去る郡山。

正面を向く女の子。

女の子 いまひとたびの春よ——いまひとしづくの露よ、それは一瞬《つかのま》ぼくの苦き

杯のなかでゆすぶられ、そこから涙のやうにこぼれだすことだらう……

立ち上がり、同じように正面を向く三姉妹。

一瞬にして、姉妹の服装、金魚のごとき赤いドレスに。

途端に、辺り一面、水底に没するが如く、紗に覆われ、階段の上から、眩しい光が差し込む。

その中で、三姉妹と女の子、祈るように……

溶暗。

幕。

文献 *bibliographie*

- 鹿島 鳴秋 (一九二九) 金魚の晝寝
金子みすゞ (一九二九) 金魚、金魚のお墓
北原 白秋 (一九三二) 金魚『赤い鳥』
草野 心平 (一九五二) 金魚『天』
春 華 堂 (二〇〇四) Q & A [Online Available : 2004/01/06, <http://www.shunkado.co.jp/q&a.htm>]
城 左門 (一九四二) あきかぜ『終の栖』
長沢 利明 (二〇〇三) 金魚の初セリと雛祭り『江戸東京歳時記をあるく』第六回、[Online Available : 2004/01/06, <http://www.kashiwashobo.co.jp/pages2/rensai/r03-06.html>]

萩原朔太郎 (一九二五) 金魚『純情小曲集』

BERTRAND, Aloysius (1836) Encore un printemps, dans *Gaspard de la Nuit*, 1842